A-VI. 脳神経内科(指導責任者 冨田 稔)

中枢神経・末梢神経・神経筋接合部・筋肉疾患の全般にわたる症候の把握、診断、諸検査の適応・実施・その解釈、疾患の治療方針決定・治療実施を可能にする正確な医学的知識、診療技術を修得し、到達目標 B「資質・能力」1~9項目を達成するとともに、到達目標 A 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)を身に付け、到達目標 C 基本的診療業務ができるようにする

【具体的行動目標】

1. 診療姿勢

- 1) 医療安全、患者の人権および価値観への配慮し、病院理念を遂行できる全人的医療の視点を失わない診療態度を身につける
- 2) 他の職種と意思疎通を図り、チーム医療を実践できる
- 3) 診療記録を適切に作成し、管理できる

2. 診断法及び検査法

- 1) 的確で詳細な病歴聴取と理学的所見及び神経学的所見をとることができる。
- 2) 問診、神経学所見より障害されている部位が推測でき、疑われる疾患を列挙できる。
- 3) 診断に必要な各種検査(頭部 CT、MRI、脳波、神経伝導検査、髄液検査、脳血流 SPECT)に対する理解を深め、適切に評価できる。
- 4) 患者とその家族に病状説明を適切に行える。
- 5) 治療方針を計画し、入院診療計画書を作成する。
- 6) 神経リハビリテーションについて理解できる。
- 7) 脳神経外科、整形外科へ相談の必要性について判断できる。
- 8) 疾患によっては精神身体医学的アプローチを行うことができる。
- 9) 退院時にサマリーを作成する。
- 10) 貴重な症例をまとめ、文献的考察を加えて学会発表する。
- 11) 死亡例に関しては脳・背髄・末梢神経、筋肉などを含めた全身の病理解剖を行う。

3. 治療法

- 1) 急性疾患の診断と治療
 - けいれん、意識障害、めまい、脳血管障害などの救急疾患の初期治療が迅速かつ確実に できる。
- 2) 気道確保、人工呼吸、気管内挿管、心マッサージを実施できる。
- 3) 人工呼吸器の装着および管理ができる。
- 4) γグロブリン大量療法、ステロイド、免疫抑制剤などが適切に使用できる。
- 5) 高カロリー輸液、経管栄養の適応を理解し手技を習得する。

4. 経験すべき症状・疾患、または経験しなくても十分な知識を習得する必要のある脳神経内科疾患

下記の頻度の高い症状を経験し、適切に対応できる

失神

めまい

けいれん

四肢しびれ

步行障害

嚥下障害

経験すべき疾患

- 1) 脳血管障害 脳梗塞、脳出血、一過性脳虚血発作
- 2) 認知症疾患 アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症
- 3) 神経変性疾患 パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症
- 4) 中枢神経感染症 ヘルペス脳炎、無菌性髄膜炎
- 5) 神経免疫性疾患 ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、壊死性筋炎
- 6) 遺伝性神経疾患 遺伝性小脳萎縮症、家族性アミロイドポリニューロパチー
- 7) 発作性疾患 てんかん、片頭痛
- 8) 代謝性疾患 糖原病、副腎白質ジストロフィー、ファブリ病

経験が望ましい疾患

- 1) 脳血管障害 可逆性脳血管収縮症候群、トルーソー症候群、可逆性後頭葉白質脳症
- 2) 認知症疾患 ピック病、顆粒性嗜銀性認知症
- 3) 神経変性疾患 進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症
- 4) 中枢神経感染症 プリオン病、進行性多巣性白質脳症
- 5) 神経免疫性疾患 慢性炎症性脱髄性多発神経炎、急性散在性脳脊髄炎
- 6) 遺伝性神経疾患 ハンチントン病、シャルコーマリートゥース病
- 7) 発作性疾患 ナルコレプシー、発作性運動誘発性ジスキネジア
- 8) 代謝性疾患 ニーマン・ピック病、那須ハコラ病

【方略: LS】研修指導体制と週間スケジュール

- 1) オリエンテーション 第1日目 8:00より 30にて
- 2) 病棟研修
 - ①脳神経内科指導医のもと入院患者を副主治医として積極的に担当する
 - ②症例検討会で討議する
 - ③指導医のもと CT、MRI、SPECT、脳波など判読する
 - ④指導医のもと侵襲的検査・治療に携わる
- 3) 一般外来研修

初診患者及び慢性疾患患者の外来で初診時の問診の進め方、鑑別判断の立て方、検査 予定の立て方、患者へのインフォームドコンセントの実際を学ぶ。

4) 救急研修

指導医のもと救急入院患者の診療に初期対応する その後、可及的に副主治医として担当する

- 5) 講義・白習
- 6) 脳卒中ガイドラインなど
- 7) 経験すべき疾患の概念・診断・治療
- 8) 中枢神経薬物の効能・副作用・使用方法
- 9) 抄読会に参加し、研修中に担当する
- 10) 救急症例検討会・CPA検討会に参加する

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来
	病棟回診	神経	脳神経内科外来	神経病理	救急当番
		放射線			
午後	神経生理	病棟回診	高次	総回診	病棟回診
			脳機能		
夕刻	脳波判読	症例カンファ	症例検討会	リハビリ	振り返り
				カンファ	

【評価 Evaluation】

詳細は、内科各科プログラムによるが、各科ローテート時に自己評価後、指導医の評価を受け、評価システム PG-EPOC を利用して臨床研修委員会に提出する。

[チェックリスト 脳神経内科

左□=並 . 工++	Ħ	経験数		評価				
知識•手技	標			十分	不十分			
病歴聴取•身体所見	10		例					
神経学的所見	20		例					
頭部 CT	20		例					
頭部 MRI	20		例					
脳血流 SPECT	10		例					
中枢神経系薬物の知識								
脳波	5		例					
神経伝導検査	5		例					
経験すべき症状				完ぺき	後少し	知識だけ	まだまだ	レポート提出
けいれん	5		例					
失神	1		例					
めまい	2		例					
四肢しびれ	5		例					
歩行障害	3		例					
嚥下障害	1		例					
経験すべき病態								
脳梗塞	10		例					
髄膜炎	2		例					
脳炎	1		例					
パ-キンソン病	3		例					
筋萎縮性側索硬化症	1		例					
脊髄小脳変性症	1		例					
認知症性疾患	1		例					
自律神経障害	1		例					
神経免疫疾患	1		例					
末梢神経疾患	1		例					
筋疾患	1		例					
脱髓性疾患 (多発性硬化症)	1		例					
全身疾患に伴う神経疾患	1		例					
	1		例					
精神疾患	1		例					